

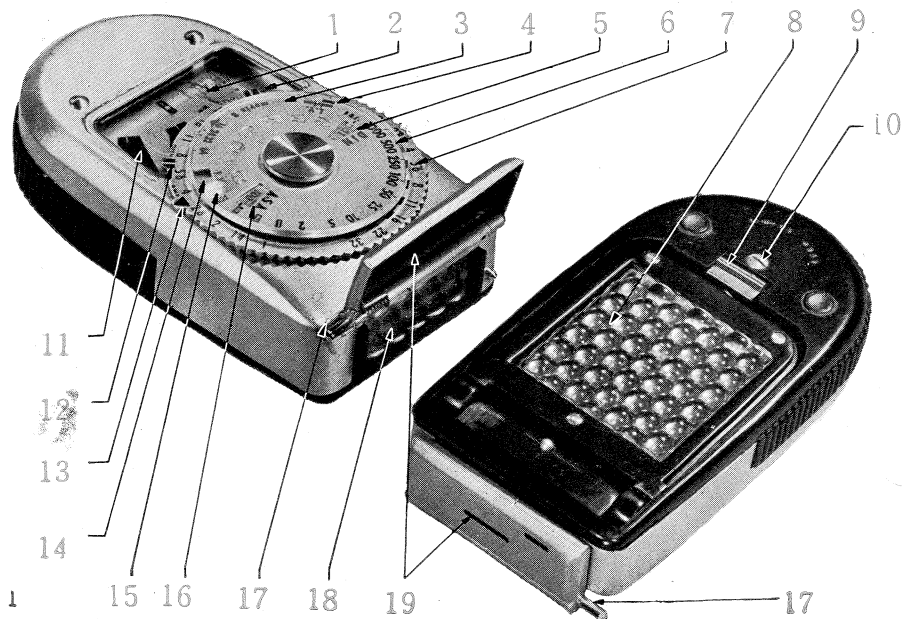
36型

発売元 株式会社 早苗商会 東京都中央区日本橋本石町3-4 電話(24) 6828-6829
関西発売元 株式会社 南光商会 大阪市南区北炭屋町27(大京ビル内)電話(27) 4905
製造元 成光電機工業株式会社 東京都豊島区堀之内199 電話(97) 1116-9



SEKONIC ELECTRIC CO., Ltd.



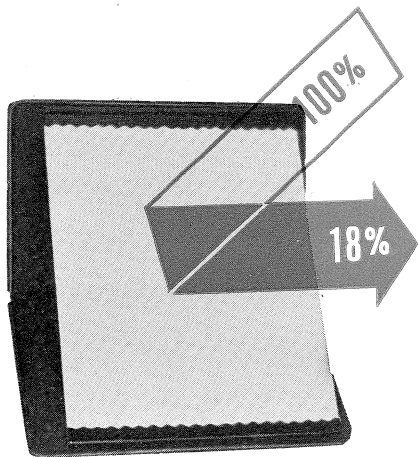


露出メーター保存上の注意

- 1 湿気の多いところへ長い間放置しないようにして下さい。
- 2 摂氏60度以上の高温を与えないようにして下さい。
- 3 急な衝撃を与えないようにして下さい。
- 4 長い間使用せずしまつて置く時は、革ケースより取り出し、桐箱等にシリカゲル（防湿剤）と一緒に保存して下さい。金属の容器や金庫への保存は適当ではありません。

セコニックはアフターサービスに特に重点を置いておりますから、いつまでも安心してご使用になれます。本メーターのパッケージに同封しております、ファンカードにそれぞれ記入事項をお書き込みの上、直ちに弊社サービス部宛お送り下さい。ファン名簿（登録台帳）に貴方の御氏名を記載の上早速登録通知書をお送り申し上げ、この日より一ケ年の間にメーターが自然に工合が悪くなりましたら無料にて修理申し上げます。なおその他の故障も実費で修理致します。

セコニック標準反射板について



被写体の反射光線の明暗の平均を簡単に得るためには標準反射板を利用すれば便利です。標準反射板は標準反射率18%の無彩色に塗られているものですからどんな状態の光線の場合でもその時の光線の18%より反射して来ませんから、いつでも標準の値、つまり平均した値が得られるわけです。明暗各種のコントラストがある場合には簡単に中間の値が得られるわけです。この場合には標準反射板を被写体の面に正しく平行に立て約10センチメートルの間隔で反射光をメーターで測りその値をカメラにセットすればよいわけです。カラー撮影の場合はカラーフィルムは白黒フィルムと根本的にその性質が異なり、反射率の違う各部分の色をそのまま発色させるわけですから、平均した値である標準反射板で測定した方がよい結果が得られます。

ゼロ調整

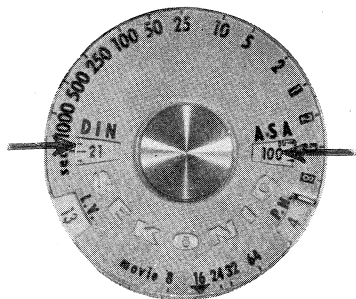
メーター受光部に光が入らないように完全に覆つても、指針が0の位置から多少ずれることがあります。この場合受光面に光が少しも入らぬよう完全に覆つて裏側のゼロアジャストネジを小さいドライバーで静かに右、または左に廻して針が正しく0の位置まで戻って下さい。

- 1 指 針
- 2 赤 印
- 3 シネ専用目盛
- 4 ライトバリュウ目盛
- 5 DIN目盛
- 6 シャッタースピード目盛
- 7 絞り目盛
- 8 オートアンプ
- 9 アンプおさえバネ
- 10 ゼロ調整ネジ
- 11 ガイドライン
- 12 青 印
- 13 黒三角印
- 14 ポロライド目盛
- 15 ツ マ ミ
- 16 ASA目盛
- 17 ボ タ ン
- 18 受 光 部
- 19 マルチフィルター

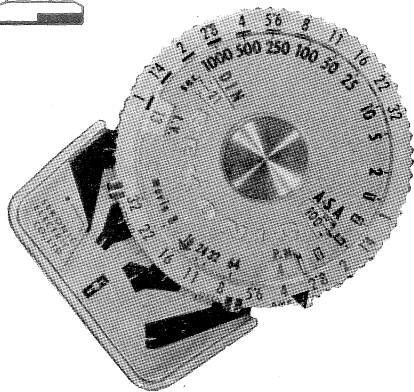
リーダーデラックス2について

- セコニック36型は反射光線式露出メーターです。反射光線式というのは被写体から反射して来る光線を測つて露出を決める方式です。(正確に云えば被写体の輝度を測定するメーターです。)
- セコニック36型はマルチフィルターの開閉により高照度と低照度が測定出来、その上非常に暗い場合にも測定出来るようにオートアンプがビルトインされております。
- オートアンプは裏のアンプおさえバネにより簡単に引出せるようになっておりますから、携帯には非常に便利になっております。
- その他セコニック36型はシネ専用目盛、フィルム感度目盛(ASA及びDIN)、ライトバリュウ目盛、ポロライドナンバー目盛もついております。

リーダーデラックス 2の使い方



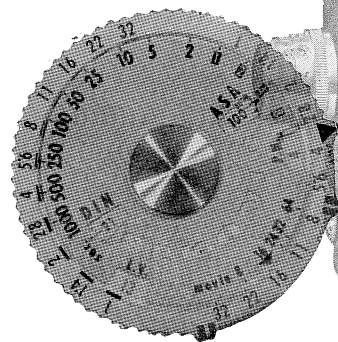
まず測定する前に貴方のお使いになるフィルムの感光度をツマミを廻して、ASA窓(DINを使用の方はDIN窓)に正しく合わせて下さい。パナクロ級ならばASA50、SS級ならばASA100をASA窓に合わせて下さい。なお同じフィルムでも太陽光の時と人工光の時では感光度は変わって参りますからフィルムに同封されている注意書をよくご覧になって下さい。



受光部を撮影する位置から被写体に正しく向けますと、その被写体の明るさに応じて針が振れ、ガイドラインを指示します。マルチフィルターを閉じて測った場合には、針の振れたガイドラインに赤印を合わせますと自動的に絞りとシャッタースピードが組合わされます。又マルチフィルターを

シネ撮影の場合

シネ撮影の場合の測り方も測定方法は普通の場合と変わりませんが、シネカメラのシャッタースピードは、普通カメラと違って1秒間に回転速度が8・16・24・32・64という駒数になっておりますから、貴方がご使用になる撮影機の駒数に組合わされている絞りの値で撮影して下さい。



A



B



逆光の場合 の測り方

C



a 被写体をシルエットにするとき

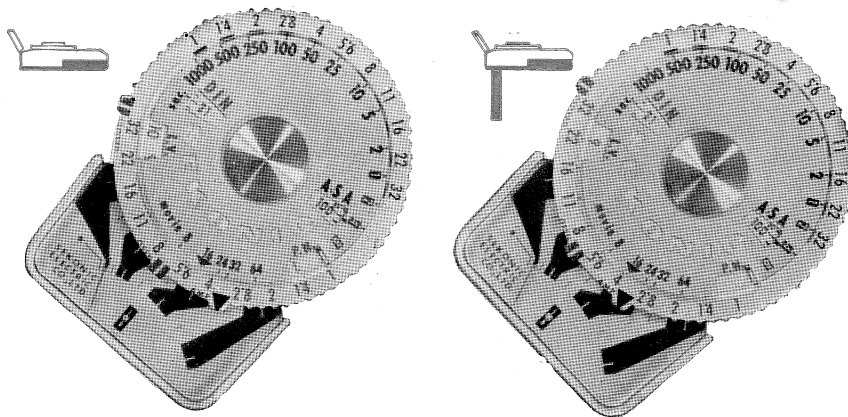
メーターをバックに向けて測定しその指示通りで撮影して下さい。つまり露出は逆光に合わせたわけで目的の被写体は露出不足となり真黒なシルエットにすることが出来ます。

b 逆光下で被写体を描写するとき

メーターを被写体の暗部に近づけて測定するか、または標準反射板を被写体と同じような光線状態にして測定します。この際バックからの光を少しでもメーターに入れぬよう注意して下さい。メーターの指示通り撮影して下さい。

c 逆光下で被写体もバックも共に描写したいとき

被写体の暗部とバックの明るさを測り、その中間の値で撮影して下さい。



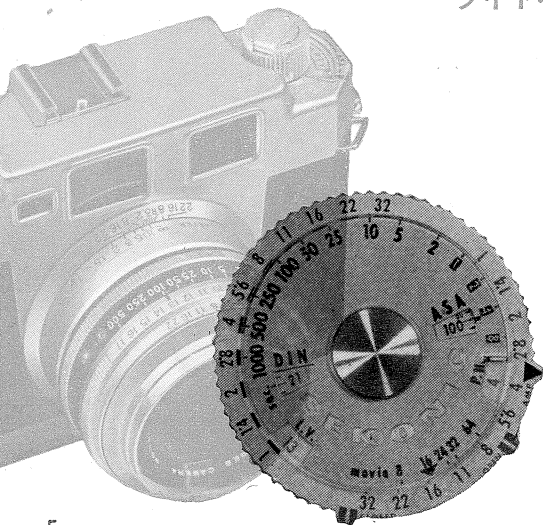
開いて測定した場合には針の示したガイドラインに青印を合わせますと同じように絞りとシャッタースピードの組合わせが得られます。

この中どれを選んででも正確な露出となりますが、被写体の状況によってどれか一つの組合わせをとって下さい。

非常に暗い場合には裏のアンプおさえバネを押してアンプを取り出して測って下さい。その場合マルチフィルターは開いて測定しなければいけません。

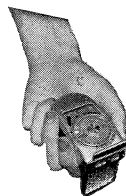
オートアンプを使用した場合には黒三角印を針の振れたガイドラインに合わせて下さい。露出の求め方は上の場合と同じです。

ライトバリュースケール



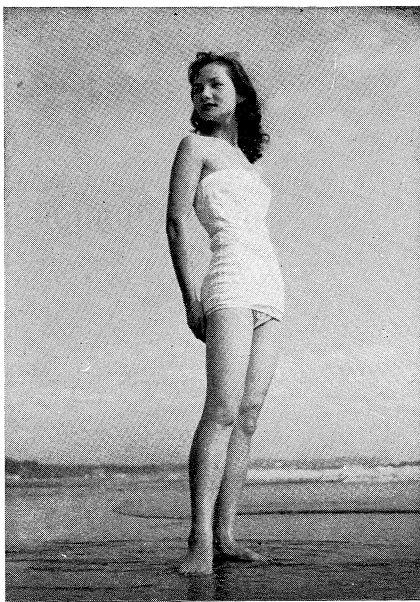
ライトバリュースケールのシャッター付カメラをお持ちの方は、このライトバリュースケール目盛で露出を決定して下さい。測定方法は普通と同じで、ただ求められたライトバリュースケールをカメラにセットするだけです。もし感光度ASA100のフィルムを使用して測定し、ライトバリュースケール目盛が14を示した時カメラのライトバリュースケール目盛も14にセットして下さい。こうすれば被写体の状況によってカメラの絞りをF8にすれば、シャッタースピードは自動的に $\frac{1}{30}$ 秒となり、またF11に絞りを絞ればシャッタースピードは自動的に $\frac{1}{60}$ 秒にセットされます。反対にシャッタースピードの方を $\frac{1}{60}$ 秒にセットすれば絞りは運動してF16になります、また $\frac{1}{30}$ 秒に置きかえれば絞りは自動的にF5.6に開いてきます。

非常に暗い場所での測定方法



非常に暗い場所ではアンプおさえバネを押してアンプを取り出して測定して下さい。その場合マルチフィルターは開いて測ります。アンプを用いて測定した場合には針の振れたガイドラインに黒三角印を合わせて露出を読みとって下さい。アンプを用いても針が振れない場合には、被写体の位置から直接光源にメーターの受光部を向けて測って下さい。もし光源が二つも三つもあるような場合はその主光源に向けて測ります。指示通りダイヤルを合わせ、得られた値を10倍して下さい。例えばF5.6で $\frac{1}{60}$ 秒ならば $\frac{1}{60} \times 10 = 1$ でF5.6で1秒が求める露出となります。



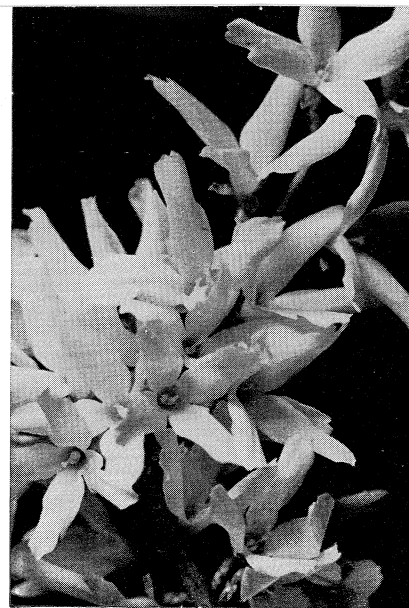


人物を海岸や雪景色等極めて明るい光線のもとで撮影するとき

スナップの要領で人物を雪景色や海岸などの極めて明るい光線のもとで撮影するときは、メーターで得られた指示より一段低い目盛を読みとって下さい。これは被写体をとりに困っている物体から必要以上に強い光線がメーターに入るのを補整するためです。(このような場所は乱反射が多いからです。)しかし被写体に近寄って測った場合や、標準反射板を使用した場合はこの必要はありません。

カラー撮影について

カラー撮影に露出メーターはなくてはならないものです。モノクローム(白黒)フィルムはある程度のラチチュード(寛容度)はありますが、カラーフィルムはこれが極めて少なく、従って少しの露出の過不足があつても美しい色は再現出来ません。カラー撮影の場合の測定法はこれといつて特別にありませんがたゞフィルムの感光度を指定どおり正確にセットすることで、あとはモノクローム撮影と全く同じですが、カラー撮影の場合は明るい部分が常に露出の基準となります。又コントラストを光源の調節やレフの使用により、1:4以内にする事が出来れば美しい色調に富んだ写真が得られます。カラー撮影はさらに美しい色を再現するために“光の質”(色温度)も正しく測定しなければなりません。これには露出メーターと共にカラーメーター(色温度計)を併用することが最も理想的です。なおカラー撮影の場合セコニック標準反射板をご使用になりますとよい結果が得られます。





人物撮影の場合

反射光線式は被写体から反射して来る光線を測って露出を決めるメーターですから、カメラ位置からメーター受光部を被写体に向ければよいわけですが、これでは勿論被写体の反射光線も入ってきますがそれ以外にバックの光、空の光線、路面の照り返し等が入って来ますから適正露出は得られないことになります。ですから反射光線式露出メーターはできるだけ被写体のそばまで近寄り、被写体の反射光線（輝度）のみを正しく測定しなければなりません。メーターと被写体との距離は約10センチメートルが一番適しております、ただしその際メーターの影をつくつたりまた測つたりしないように注意して下さい。しかしただ近寄つただけでも正確な露出は得られません。もし被写体

（人物）が白い上衣に黒いズボンをしていたとした場合、メーターを近づけて、明るい頬の部分を測つたのと黒い髪の部分を測つたのではそれぞれメーターの指示は違つています。ですからいかに近寄つても明るい頬のみを測つたのでは頬の部分の適正露出であり他の髪や影の部分は露出不足となります。またこの反対の場合も同じことが云えます。この場合被写体の各部を測つて（頭髪・皮膚・明い部分・暗い部分）その平均した値を求めればよいわけです。しかし普通には被写体の最明部と最暗部を測つてその中間の値をとればよいでしょう。またセコニック標準反射板を使用すれば最明部と最暗部を測る必要なく簡単に適正露出が得られます。

風景の場合



風景やスナップ等被写体に近寄れない場合には、カメラの位置から直接被写体、または目的の中心にメーターを向けます、ただしこの場合空の光線が入らないようにメーターを少し斜め下に向けて測って下さい。

しかしその風景が広く展開した風景であつたり、また遠くの山々を写すような場合は前のようにして得られたメーターの指示どおりではなく、その値を低きりつめてください。

空気光の影響で被写体の明部が明るくなり、被写体コントラストが低くなるからです。

もしF22で $\frac{1}{1000}$ 秒とダイヤルが組合わされましたら $\frac{1}{1000} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{2000}$ でF22の $\frac{1}{2000}$ 秒となります。

スナップの場合には風景と同じ測り方をして下さい。ただし切りつめる必要はありません。またセコニック標準反射板を使用すれば最も良い結果が得られます。